

静岡の「利点」を生かせ

三菱自動車工業(株) 前社長

多賀谷秀保さん

Hideyasu Tagaya



静岡市出身で東京を拠点に内外で活躍している皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

半歩先を見る

気さくな人柄、折り紙つきの実行力。相次ぐトラブルで窮地に立たされていた三菱自動車の信頼回復と再建を託され、2004年に社長に就任。危機脱出へレールを敷いた。

米国8年、欧州4年の海外勤務を経験。欧州ではパジエロを売りまくった。「欧米には新たな価値観、自分の知らない価値観が無限にあることを教えられた」。

人口71万人の静岡市。東京のような生

き残り競争の激しい、隙のない大都市で勝ち組になるためには、かなりの覚悟と知恵が必要だ。多賀谷さんは、経営者には「半歩先を見る」視点が必要と説く。

「歴史は繰り返すというが、多少違った形でも必ずパターンがあるような気がする。(勝ち組になるためには、そのパターンをいかに掴むか、つまり半歩先を見て進めるかだと思う)」

「東京はオタクっぽくなっていて、静岡の文化に合わない」とも指摘する。どの自治体も町おこしに躍起だが、静岡市には「何



多賀谷秀保(たがや ひでやす)

静岡市清水区生まれ。県立静岡高校卒業、東京大学経済学部卒業、1972年、三菱自動車工業(株)入社、海外事業部、欧州駐在(オランダ・ドイツ)、欧州本部、米国駐在、商品企画部長、マーケティング戦略室長、国際協業推進室長、執行役員・海外統括本部長などを経て2004年、代表取締役社長。2005年、米国三菱自動車会長、2007年、社長アドバイザーに就任。65歳。

でもとれ、品質もそこそこなのに、はっと頭に浮かぶ全国「がない」。だから「総合力で取り組んだ方が結果を出せるのではないかと話す。

東京と静岡市の違いの理由を一言で言い表すのは難しい。多賀谷さんの言葉を借りれば、「東京は新しい価値観がどんどん生まれる。静岡にはそれが無い」。

新しい価値観が生まれにくいから、「逆にブームを起こすような動きも発信しづらいのではないか」。言葉は辛辣だが、郷土を愛するがゆえだ。

「天下の隠居所もよし」

一方で、評価点も。「静岡市は気候はいいし、水も食べ物もうまい。富士山だってある。人口吸収力はある」。東京に近いことも利点だという。「新幹線で1時間。横浜の奥から東京へ出るより余程近い」

少子化時代だが、「こうした利点をもっと生かすべきだ。超高齢化社会を逆手にとつて、徳川家康ではないが天下の隠居所にしたつていいと思う。お年寄りを呼び込む観光振興も考えたい」と提案する。

日本の自動車市場については、「今の軽自動車は速いし、性能も良い。小型化の傾向は変わらないのではないかと」の見方を示す。TPP(環太平洋経済連携協定)には「反対論もあるが、もう少し現代風に、合理的に考えた方がいい」とキツパリ。これも半歩先を見た発言とみた。

(文・写真 長田義明)